

Asia Indicators

発表日: 2022年4月15日(金)

豪州、経済活動の正常化と資源高が雇用の底入れを促す(Asia Weekly(4/8~4/15))

～インドのインフレ率は商品市況の上昇と堅調な景気を追い風に一段と加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/8(金)	(台湾)3月消費者物価(前年比)	+3.27%	+2.90%	+2.36%
	3月輸出(前年比)	+21.3%	+21.0%	+34.8%
	3月輸入(前年比)	+20.3%	+20.5%	+35.3%
4/11(月)	(中国)3月消費者物価(前年比)	+1.5%	+1.2%	+0.9%
	3月生産者物価(前年比)	+8.3%	+7.9%	+8.8%
	(マレーシア)2月鉱工業生産(前年比)	+3.9%	+4.0%	+4.3%
4/12(火)	(インド)3月消費者物価(前年比)	+6.95%	+6.35%	+6.07%
4/13(水)	(韓国)3月失業率(季調済)	2.7%	--	2.7%
	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	1.50%	1.25%	1.00%
	(中国)3月輸出(前年比)	+14.7%	+13.0%	+16.3%
	3月輸入(前年比)	▲0.1%	+8.0%	+15.5%
4/14(木)	(シンガポール)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+3.4%	+3.8%	+6.1%
	(豪州)3月失業率(季調済)	4.0%	3.9%	4.0%
	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	1.50%	1.25%	1.25%

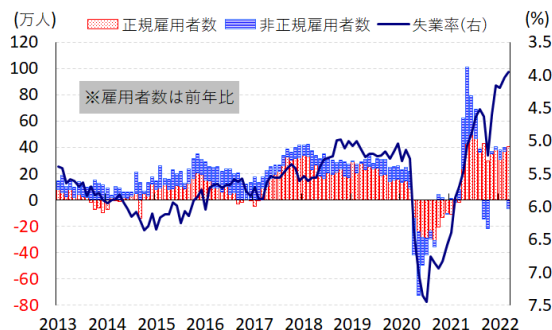
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[豪州]～経済活動の正常化に加えて商品市況の上振れも重なり、幅広い地域で雇用の底入れが進んでいる～

14日に発表された3月の失業率(季調済)は4.0%となり、前月(4.0%)から横這いで推移している。失業者数は前月比▲1.2万人と前月(同▲1.9万人)から2ヶ月連続で減少しており、正規雇用に対する求職者数(同+1.3万人)は拡大しているものの、非正規雇用に対する求職者数(同▲2.6万人)の減少が全体を下押ししている。中期的な基調も減少傾向で推移するなど調整が進んでいる様子が見えてくる。一方の雇用者数は前月比+1.8万人と前月(同+7.7万人)から5ヶ月連続で拡大しており、非正規雇用者数(同▲0.3万人)は2ヶ月連続で減少しているものの、正規雇用者数(同+2.1万人)の拡大が全体を押し上げている。中期的な基調も拡大傾向で推移しており、正規雇用の拡大が底入れを促している。地域別では、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州など都市部を中心に雇用拡大の動きが続いているほか、国際商品市況の上振れを受けて鉱業部門が盛んな西オーストラリア州においても雇用拡大の動きが確認されるなど、幅広い地域で雇用を取り巻く状況が改善している様子が

うかがえる。雇用環境の改善を受けて労働力人口も拡大が続くなか、労働参加率は66.4%と前月(66.4%)から引き続き過去最高水準で推移しており、政府による『ウィズ・コロナ』戦略により経済活動の正常化の動きが進んでいることも改善に繋がっているとみられる。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インド]～生活必需品のみならず全般的にインフレ圧力が強まり、インフレ率は一段と加速の動きを強めている～

12日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+6.95%となり、前月(同+6.07%)から加速して3ヶ月連続で中銀(インド準備銀行)が定めるインフレ目標(4±2%)を上回る推移となっている。前月比も+0.96%と前月(同+0.24%)から上昇ペースが加速しており、生鮮食料品や穀物などを中心に食料品価格が上昇の動きを強めているほか、原油をはじめとするエネルギー資源価格の高止まりを反映してエネルギー価格も上昇傾向を強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も加速しており、幅広くインフレ圧力が高まっている様子がうかがえる。エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染一服を受けた経済活動の活発化を反映してサービス物価にも押し上げ圧力が掛かる動きがみられるなど、全般的にインフレ圧力が高まっている。

図2 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる一方、世界経済の回復の動きは輸出入を下支えている～

8日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+3.27%となり、前月(同+2.36%)から加速して2012年8月以来、約9年半ぶりに3%を上回る伸びとなった。前月比も+0.31%と前月(同+0.00%)から上昇ペースが加速しており、生鮮品や穀物などを中心とする食料品価格の上昇が続いているほか、

国際原油価格の上昇を反映してエネルギー価格も上昇傾向を強めており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.47%と前月（同+1.64%）から加速して2ヶ月ぶりに2%を上回る伸びとなっている。前月比も+0.19%と前月（同+0.01%）から上昇ペースは加速しており、エネルギー価格の上昇を反映した輸送コストの上振れを受けて幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服による行動制限の緩和を受けてサービス物価への下押し圧力も後退しており、全般的にインフレ圧力が強まっている様子が見られる。

また、同日に発表された3月の輸出額は前年同月比+21.3%となり、前月（同+34.8%）から伸びが鈍化した。前月比は▲9.0%と前月（同+12.1%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きが続いているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い推移が続いている。主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、金属関連やプラスチック関連、化学関連など素材及び部材に対する需要が底堅く推移している。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けやASEAN（東南アジア諸国連合）などアジア新興国向けが堅調に推移しているほか、米国や日本、EU（欧州連合）など先進国向けも底堅いなど、世界経済の回復の動きが輸出を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+20.3%となり、前月（同+35.3%）から伸びが鈍化した。前月比も▲8.4%と前月（同+12.3%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅く推移している。輸出の堅調さを反映した素材及び部材などに対する需要が下支えされているほか、国際商品市況の上昇の動きも輸入額を下支えしている。結果、貿易収支は+46.58億ドルと前月（+58.10億ドル）から黒字幅は縮小している。

図3 TW インフレ率の推移

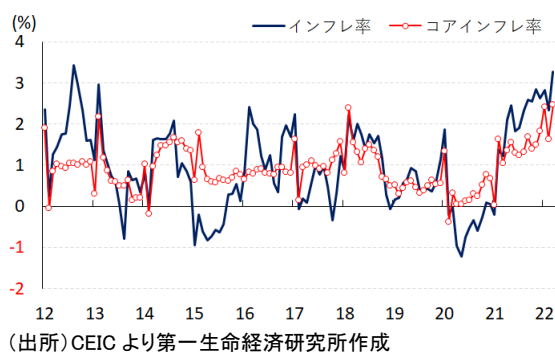
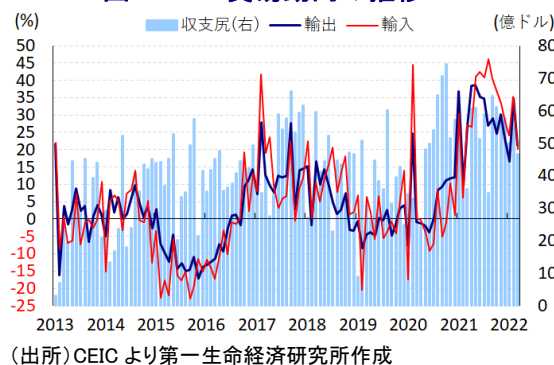


図4 TW 貿易動向の推移

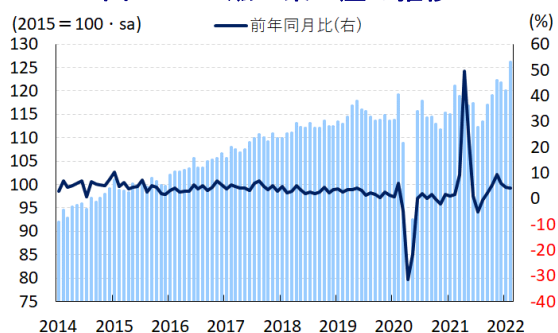


【マレーシア】～感染再拡大も「ウィズ・コロナ」戦略が維持されるなか、幅広い分野で生産底入れの動きが続く～

11日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+3.9%となり、前月（同+4.3%）から伸びが鈍化した。ただし、前月比は+5.17%と前月（同▲1.48%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。分野別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、輸送用機器関連、化学関連などを中心に製造業で生産拡大の動きが続いているほか、国際商品市況の上振れの動きを反映して原油及び天然ガスをはじめとする鉱業部門の生産も拡大するなど、幅広い分野で生産拡大の動きが見られる。年明け以降の同国ではオミクロン株による新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大の動きが広がりをみせているものの、政府は

ワクチン接種の進展を受けて経済活動の正常化を図る『ウィズ・コロナ』戦略を維持しており、欧米を中心とする世界経済の拡大の動きも相俟って企業活動を後押ししていると捉えられる。

図5 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。